

第5・6学年算数科学習指導案

日 時 平成20年10月9日(木) 6校時
 児 童 第5学年 男子1名 女子1名 計 2名
 第6学年 男子7名 女子3名 計 10名
 指導者 伊 東 暁 子

≪第5学年≫

1 単元名 「小数のわり算を考えよう」

2 単元について

(1) 教材について

第5学年の「数と計算」の目標は、「小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにするとともに、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」である。

児童は、小数の学習について、第4学年で1/10の位の範囲で仕組みや加減計算について学習している。そして、第5学年の1学期に小数の意味を1/1000の位まで拡張し、小数が整数と同じ十進法であることを学習した。小数の乗法については、小数×整数、小数×小数の意味と計算方法を学習している。

本単元の主なねらいは、「除数が小数の場合の除法の意味とその計算の仕方について理解し、それをを用いる能力を高める。また、計算法則は数範囲が小数の場合でも成り立つことを理解する。」である。前単元では、乗数が小数の場合の意味とその筆算の仕方を学習している。本単元とは互いに対をなしている内容が多いので、乗法と除法の特異性に配慮して指導にあたるようにする。

(2) 児童について

間接指導時でも与えられた課題にじっくりと取り組んだり、協力しながら活動するなど、真剣に学習に取り組む児童である。しかし、学習内容を理解するのに時間がかかることが多く、解決方法を筋道立てて考えることが苦手である。また、自信がなかったり、説明の仕方が分からないなどの理由から、自分の考えを進んで発表することが苦手である。そのため、それぞれの学習過程で、支援や配慮が必要である。

○レディネステストの結果 (正答数/問題数) (略)

問 題	A児	B児
計算のきまりを活用して、何百何十÷何十の計算ができる。		
小数÷整数の計算		
あまりのある小数÷整数の計算ができる。		
被除数が小数の場合のわり算の問題		
小数倍の問題		

≪第6学年≫

1 単元名 「分数のかけ算とわり算を考えよう(2)」

2 単元について

(1) 教材について

第6学年の「数と計算」の目標は、「分数の加法及び減法についての理解を深め、適切に用いることができるようにするとともに、分数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにする。」である。

児童は、整数の除法の意味を小数へと拡張することは、第5学年で学習している。また、分数へ拡張することは、被除数については、前単元で学習している。

本単元の主なねらいは、「除数が分数の場合の除法計算の意味とその計算の仕方について理解し、それをを用いる能力を高める。」である。分数の除法の計算方法は、「わる数の分母と分子を入れかえた数をかける」であり、この計算方法を記憶して計算することはさして困難なことではないが、この計算方法を導き出す過程を理解させることは難しいと考えられる。そのため、図解を手がかりとして考えさせていく。この過程をよく理解することは、分数でわることの意味を理解させる上できわめて有効であることをおさえて指導にあたるようにする。

(2) 児童について

与えられた課題に集中して取り組む児童が多い。しかし、自分なりの方法で新しい課題に取り組むことを苦手としている児童が数名おり、見通しや自力解決の場面で支援や配慮が必要である。また、問題解決にかかる時間や計算を解くスピードに個人差があるために、なかなか充実した発表や確かめの時間をとることが難しい。

レディネステストの結果 (正答率)

問 題	%
単位分数の考え方(4問)	83
分数の分母と分子の関係(4問)	70
分数の約分(2問)	90
異分母分数の計算(4問)	73

レディネステストの結果からは、小数÷整数の計算はできるものの計算の意味理解や倍の意味理解は不十分である。したがってどちらの児童に対しても、線分図や半具体物等を用いてじっくりと考えさせることが必要と考える。

(3) 指導にあたって

除数が整数の除法から、小数の場合も使えるようにするためには、除法の意味を拡張する必要がある。そのため、除数が小数の場合も数直線や言葉の式をもとにして「1つ分の量」を求める計算という意味に拡張していく。

計算の仕方については、除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないという計算の決まりを活用することによって既習の整数の計算と同じ考え方で求めることができる。

商と除数の関係では、分けると小さくなるというイメージから、児童は、わり算をすると答えは、もとの数より小さくなると思っていると考えられる。ここでは、数直線を活用して被除数と商の関係をとらえたり、実際に計算して数値を比べたりすることで児童の素朴な考えを是正していく。

小数倍と除法については、関係図と言葉の式を活用して数量の関係に着目させながら学習を進めていくようにする。

本単元では、第1, 9, 10, 11時が6年生と同じ考え方で学習できると考え、共通導入・共通終末を行い、指導の効率化を図り、習熟の時間を確保していきたい。

3 単元の目標

除数が小数の場合の意味とその計算の仕方について理解し、それを用いる能力を高める。また、計算法則は数範囲が小数の場合でも成り立つことを理解する。

【関心・意欲・態度】

- ・除数が小数の場合でも、既習の整数の場合の数量関係などをもとにして、除法の式に表そうとする。

【数学的な考え方】

- ・整数の除法計算と関連付けて、除数が小数の除法計算の仕方を考える。

【表現・処理】

- ・除数が小数の除法計算をすることができる。

【知識・理解】

- ・除数が小数の除法の意味やその計算の仕方を理解する。

レディネステストの結果からは、ほとんどの児童が通分や約分ができるようになっている。しかし、計算問題の中では、約分をし忘れる児童が数名いる。また、若干名だが、通分と約分を混同している児童もいるので、個別指導が必要と考える。

(3) 指導にあたって

分数でわることの意味については、除数が整数のときと対比し、数直線図や言葉の式をもとにして、除数が分数の場合も数直線図の数量の関係が同じであることを根拠に考えさせる。

計算の仕方については、「わる数の分母と分子を入れかえた数をかける」という手続きを導くことを、単位分数に着目して既習の整数の乗除法に帰着させる方法や、除法に関する計算の方法（わる数とわられる数に同じ数をかけても商は変わらない）を活用して、除数を整数化する方法で考えさせる。

分数倍と除法については、関係図と言葉の式を活用して数量の関係に着目させながら学習を進めていくようにする。

本単元では、第1, 9, 10, 11時が5年生と同じ考え方で学習できると考え、共通導入・共通終末を行い、指導の効率化を図り、習熟の時間を確保していきたい。

3 単元の目標

除数が分数である場合の除法計算の意味とその計算の仕方について理解し、それを用いる能力を高める。

【関心・意欲・態度】

- ・分数÷分数の計算の仕方を、分数の性質や既習の計算と関連付けて考えようとする。

【数学的な考え方】

- ・分数の性質や既習の計算をもとにして、分数÷分数の計算の仕方を考える。

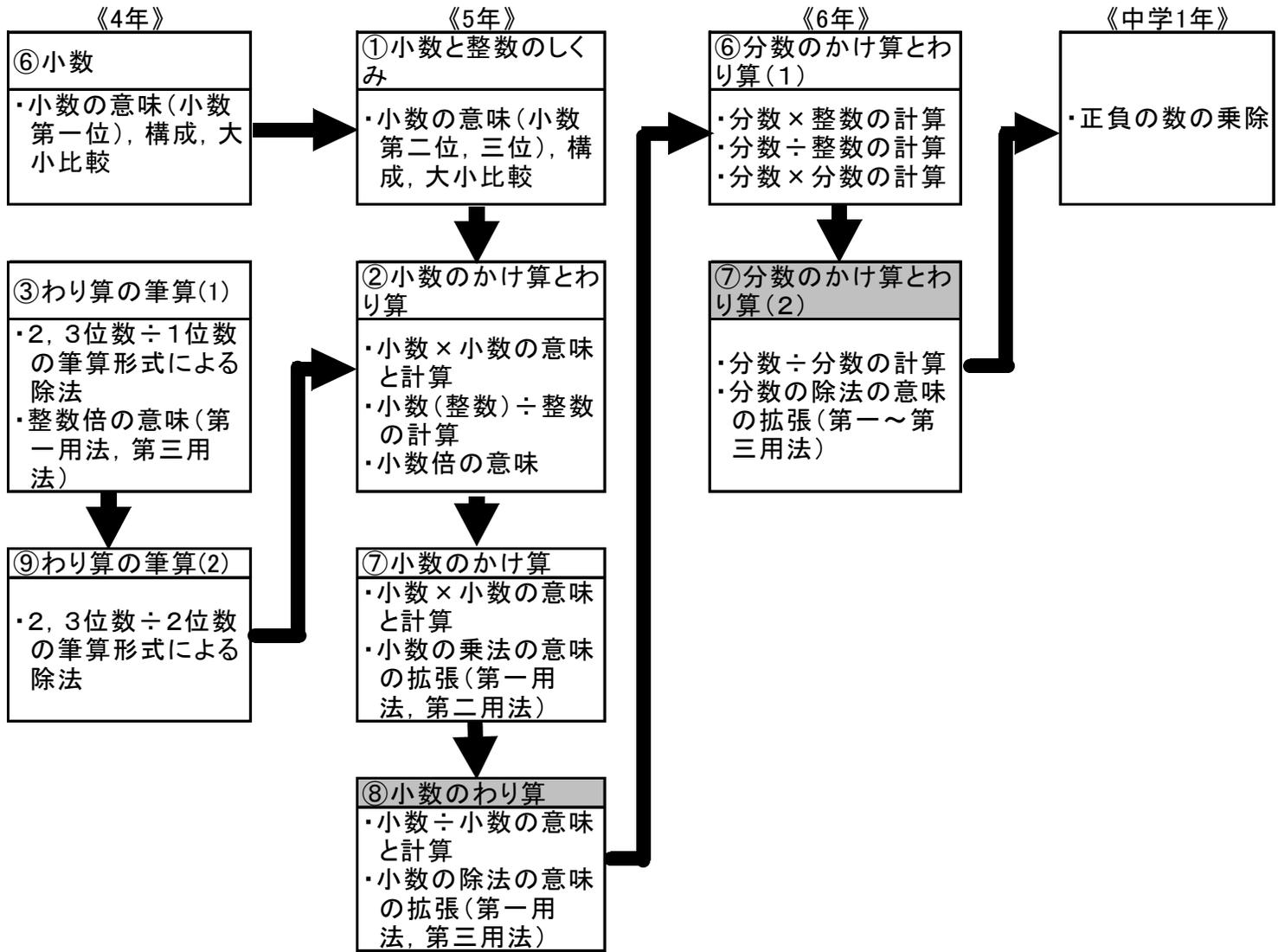
【表現・処理】

- ・分数÷分数の計算ができる。

【知識・理解】

- ・分数÷分数の計算の意味やその計算の仕方を理解する。

4 単元の関連と発展



5 指導計画及び評価計画 (全 12 時間)

《第5学年》			時数		《第6学年》		
単元名「小数のわり算」			12	12	単元名「分数のかけ算とわり算を考えよう(2)」		
小単元	主な評価規準	学習活動	時間		学習活動	主な評価規準	小単元
小数のわり算	【考】 既習の整数÷整数, 小数÷整数などに関連付けて, 整数÷小数(1/10の位まで)の計算の仕方を考えている。	【5年内容】 小数で割ることの意味と, 整数÷小数(1/10の位まで)の計算の仕方を理解する。 リボンの長さが小数で表されていても, 1mの値段を求めるときには, 整数のときと同じように, わり算の式をたてます。	1	1	【6年内容】 分数で割ることの意味を理解する。 使った量が分数で表されていても, 1d1でぬれる面積を求めるには, 整数や小数のときと同じように, わり算の式をたてます。	【考】 図や計算のきまりを用いて既習の分数×整数, 分数÷整数の計算をもとにして, 真分数÷真分数の計算の仕方を考えている。	分数のわり算
	【知】 小数で割ることの意味を理解している。	【5年内容】 小数で割ることの意味と, 整数÷小数(1/10の位まで)の計算の仕方を理解す	1	1	【6年内容】 真分数÷真分数の計算の仕方を理解し, その計算ができる。	【表】 真分数÷真分数の計算ができる。	

	【考】 除法の性質を用いて既習の計算に帰着させ1/10の位までの、小数どうしの除法の筆算の仕方を考えている。	【5年内容】 1/10の位までの小数どうしの除法の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	1	1	【6年内容】 計算の途中で約分できるときは、約分すると簡単なことを理解する。	【表】 整数÷分数の計算ができる。	
	【表】 1/10の位までの小数どうしの除法の計算（商が純小数や被除数に0を補う場合）ができる。	【5年内容】 1/10の位までの小数どうしの除法の計算（商が純小数や被除数に0を補う場合）ができる。	1	1	【6年内容】 3口の分数の乗除混合計算の仕方を理解し、その計算ができる。	【表】 3口の分数の乗除混合計算ができる。	
	【考】 数直線上で除数の大きさと関連付けて、被除数と商の大小関係を考えている。	【5年内容】 純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。	1	1	【6年内容】 分数の乗除の立式について力あを深める。	【表】 問題場面における数量の関係を、数直線図を用いて立式することができる。	
	【表】 余りのある場合の小数の除法計算ができる。	【5年内容】 小数の除法におけるあまりの位取りについて理解する。	1	1	【6年内容】 分数の乗除の立式について理解を深める。	【表】 問題場面における数量の関係を、数直線図を用いて立式することができる。	
	【表】 小数の除法の答えを、必要に応じて概数で表すことができる。	【5年内容】 小数の除法の答えを概数で表すときの処理の仕方を理解する。	1	1	【6年内容】 時間の分数表示について理解する。	【表】 時間を分数表示して、問題解決に用いることができる。	時間と分
	【表】 学習内容を正しく用いて、問題を解決することができる。	【5年内容】 学習内容を確実に身に付ける。	1	1	【6年内容】 学習内容を確実に身に付ける。	【表】 学習内容を正しく用いて、問題を解決することができる。	
小数の倍とわり算	【表】 比較量、基準量が小数の場合も何倍かを除法で求めることができる。	【5年内容】 比較量、基準量が小数のときも、何倍かは除法で求められることを理解する。	1 本時	1 本時	【6年内容】 比較量、基準量が分数のときも、何倍かは除法で求められることを理解する。	【考】 比較量、基準量が分数の場合も、何倍かは、図などを用いることによって除法で求められることを考えている。	分数の倍とわり算
		小数のときも分数のときも、ある大きさがもとにする大きさの何倍にあたるかを求めるには、わり算を使います。					
	【表】 倍を表す数が小数の	【5年既習内容】			【6年内容】	【知】 倍を表す数が分数の	

	場合も、乗法を用いて倍にあたる大きさを求めることができる。	倍を表す数が小数のときも、比較量は基準量×何倍で求められることを理解する。	1	1	倍を表す数が分数のときも、比較量は基準量×何倍で求められることを理解する。	場合も乗法を用いて倍にあたる大きさを求めることを理解している。
		倍を表す数が小数のときも、分数のときも、倍にあたる大きさは、かけ算で求められます。				
	【表】 倍を表す数が小数の場合も□を用いるなどして基準量を求めることができる。	【5年内容】 倍を表す数が小数のときも、基準量は比較量÷倍で求められることを理解する。	1	1	【6年内容】 倍を表す数が分数のときも、基準量は比較量÷倍で求められることを理解する。	【表】 倍を表す数が分数の場合も□を用いるなどして基準量を求めることができる。
		小数のときも分数のときも、もとにする大きさを求めるときは、□を使ってかけ算の式に表すと考えやすくなります。				
ま と め	【表】 基本的な学習内容について理解している。	【5年内容】 学習内容の理解を確認する。	1	1	【6年内容】 学習内容の理解を確認する。	【表】 基本的な学習内容について理解している。 ま と め

6 本時の指導

- (1) 目標
比較量，基準量が小数のときも，何倍かは除法で求められることを理解する。
- (2) 本時の指導にあたって
手だて1「指導過程の工夫」
① 指導内容に応じた弾力的な指導過程の工夫
発表を一齐指導で行い，6年生からアドバイスをもらうなどの交流場面をもうけ，学習に深まりをもたせる。
② 単元の組み替えによる指導過程の工夫
問題文の数値を小数と分数で表し，2つの学年が共通の問題文で学習できるような導入を行うことによって，指導の効率化を図り，習熟の時間を確保できるようにする。
- 手だて2「個に応じた指導の工夫」
② 個に応じた指導の工夫
半具体物を用意し，問題場面をイメージしやすくさせる。個に応じて自力解決の手助けとなるミニプリントを用意し，考えを整理できるようにさせる。
- 手だて3「既習事項活用の工夫」
① 掲示の工夫
本時までの学習内容を掲示し，学習活動の支援とする。
② 提示の工夫
フラッシュカードを用いて既習事項の確認と学習内容の確認をさせる。

(3) 評価規準と具体の評価規準

評価規準	
	比較量，基準量が小数の場合も，何倍かを除法で求めることができる。 (表現・処理)
具体の評価規準	A (十分到達している) 比較量，基準量が小数の場合も，何倍かを除法の式を立て求めることができ，立式の根拠を図や言葉で表現できる。
	B (到達している) 比較量，基準量が小数の場合も，何倍かを除法の式を立て求めることができる。
	支援の工夫 整数の場合と同様に考えられることをプリント等で確認させる。

6 本時の指導

- (1) 目標
比較量，基準量が分数の場合も，何倍かは除法で求められることを理解する。
- (2) 本時の指導にあたって
手だて1「指導過程の工夫」
① 指導内容に応じた弾力的な指導過程の工夫
発表を一齐指導で行い，5年生の発表からも共通の考え方を見つけ出したり，既習の復習を行ったり，5年生にアドバイスをするなどして，学習に深まりをもたせる。
② 単元の組み替えによる指導過程の工夫
問題文の数値を小数と分数で表し，2つの学年が共通の問題文で学習できるような導入を行うことによって，指導の効率化を図り，習熟の時間を確保できるようにする。
- 手だて2「個に応じた指導の工夫」
② 個に応じた指導の工夫
半具体物を用意し，問題場面をイメージしやすくさせる。個に応じて自力解決の手助けとなるミニプリントを用意し，考えを整理できるようにさせる。
- 手だて3「既習事項活用の工夫」
① 掲示の工夫
本時までの学習内容を掲示し，学習活動の支援とする。
② 提示の工夫
フラッシュカードを用いて既習事項の確認と学習内容の確認をさせる。

(3) 評価規準と具体の評価規準

評価規準	
	比較量，基準量が分数の場合も，何倍かを除法で求めることができる。 (表現・処理)
具体の評価規準	A (十分到達している) 比較量，基準量が分数の場合も，何倍かを除法の式を立て求めることができ，立式の根拠を図や言葉で表現できる。
	B (到達している) 比較量，基準量が分数の場合も，何倍かを除法の式を立て求めることができる。
	支援の工夫 整数の場合と同様に考えられることをプリント等で確認させる。

(4) 本時の展開

直接指導 間接指導 個別指導

段階	留意点・支援◎ 評価☆	学習活動 《5年生》	形態	学習活動 《6年生》	留意点・支援◎, 評価☆	段階
つかむ 3分	◎半具体物を提示し，問題の理解に役立てる。(手だて2) ・もとになるのが赤いテープ 2.4 m ということを実際にとらえさせる。 ・6年生との共通点，相違点をとらえさせる。	1 学習問題をつかむ。 赤と青のリボンがあります。赤のリボンの長さは 2.4 m です。青のリボンの長さは 3.6 m です。赤のリボンの長さをもとにすると青のリボンの長さは何倍ですか。 ○分かっていること，聞かれていること等をとらえる。 赤のリボン→もとの大きさ 青のリボン→比べる大きさ 求めること→倍 2 学習課題をつかむ。 もとの大きさや比べたい大きさが小数の時，何倍にあたる大きさの求め方を考えよう。		1 学習問題をつかむ。 赤と青のリボンがあります。赤のリボンの長さは 1/2 m です。青のリボンの長さは 3/4 m です。赤のリボンの長さをもとにすると青のリボンの長さは何倍ですか。 ○分かっていること，聞かれていること等をとらえる。 赤のリボン→もとの大きさ 青のリボン→比べる大きさ 求めること→倍 2 学習課題をつかむ。 もとの大きさや比べたい大きさが分数の時，何倍にあたる大きさの求め方を考えよう。	◎半具体物を提示し，問題の理解に役立てる。(手だて2) ・もとになるのが赤いテープ 1/2 m ということを実際にとらえさせる。 ・5年生との共通点，相違点をとらえさせる。	つかむ 3分
見通す	◎答えが 1 倍より大きくなることをテープ図で確認する。	3 答えと解決方法を予想する。 ○答えの見通し ・もとより大きい。 ○解決方法の見通し ①関係図		3 答えと解決方法を予想する。 ○答えの見通し ・もとより大きい。 ○解決方法の見通し ①関係図	◎答えが 1 倍より大きくなることをテープ図で確認する。	見通す

5分		②言葉の式（整数にしてみる）		②言葉の式（整数にしてみる）	5分	
やってみる 7分	<p>◎立式で悩んでいる児童に自力解決用のプリントを用意する。（手だて2）</p> <p>・早く終わった時の活動を指示する。</p> <p>①発表の準備（ホワイトボードに自分の考えを書く。発表の練習。）</p> <p>②教え合い（隣の人が終わっていたら、お互いに自分の考えを発表し合う。）</p>	<p>4 自分で考えた方法でやってみる。</p> <p>①関係図</p> <p>0 2.4 3.6 (m)</p> <p>0 1 □ (倍)</p> <p>$3.6 \div 2.4 = 1.5$</p> <p>②言葉の式 比べたい÷もと</p> <p>$3.6 \div 2.4 = 1.5$</p>		<p>4 自分で考えた方法でやってみる。</p> <p>①関係図</p> <p>0 1/2 3/4 (m)</p> <p>0 1 □ (倍)</p> <p>$3/4 \div 1/2 = 3/4 \times 2/1 = 3/2$</p> <p>②言葉の式 比べたい÷もと</p> <p>$3/4 \div 1/2 = 3/4 \times 2/1 = 3/2$</p>	<p>◎立式で悩んでいる児童に自力解決用のプリントを用意する。（手だて2）</p> <p>・早く終わった時の活動を指示する。</p> <p>①発表の準備（ホワイトボードに自分の考えを書く。発表の練習。）</p> <p>②教え合い（隣の人が終わっていたら、お互いに自分の考えを発表し合う。）</p> <p>③5年生の問題を解き、アドバイスの準備をする。</p>	やってみる 7分
たしかめる 15分	<p>・自分の考えと似ている点や違う点に印を付けさせ、比較させる。</p> <p>☆比較量、基準量が小数の場合も、何倍かを除法の式を立て求めることができる。</p> <p>（表現・処理） （ノート・発表）</p> <p>・問題を解き終わったらまとめを自分の言葉でノートに記入する。</p>	<p>5 発表し合いみんなで確かめ合う。</p> <p>・6年生と発表を交流する。</p> <p>6 解決方法をまとめる。</p> <p>・小数でもわり算で求められる。</p> <p>7 類似問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>黄色のテープは 1.8 m です。赤のリボンの長さをもとにすると、黄色のリボンの長さは何倍ですか</p> </div>		<p>5 発表し合いみんなで確かめ合う。</p> <p>・5年生と発表を交流する。</p> <p>6 解決方法をまとめる。</p> <p>・分数でもわり算で求められる。</p> <p>7 類似問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>黄色のテープは 3/8 m です。赤のリボンの長さをもとにすると、黄色のリボンの長さは何倍ですか</p> </div>	<p>・自分の考えと似ている点や違う点に印を付けさせ、比較させる。</p> <p>☆比較量、基準量が分数の場合も、何倍かを除法の式を立て求めることができる。</p> <p>（表現・処理） （ノート・発表）</p> <p>・問題を解き終わったらまとめを自分の言葉でノートに記入する。</p>	たしかめる 15分
まとめる 15分	<p>・6年生の発表を聞き、自分達の学習内容に関わるところに気付かせる。</p> <p>・時間がある児童には、今日の振り返りをノートに書かせる。</p> <p>・簡単なマークで本時の課題に対して、自己評価をさせる。</p> <p>・それぞれの学年の活動で良かったところを交流させる。</p>	<p>8 課題のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>もとの大きさや比べたい大きさが小数の時も何倍にあたるか求めるには、わり算を使います。</p> </div> <p>9 練習問題を解く。</p> <p>・本時の学習内容をフラッシュカードで確認する。</p> <p>① 6.9 mは、4.6 mの□倍です。</p> <p>② 4.9kgは、3.5kgの□倍です。</p> <p>③あかねこスキル</p> <p>10 学習を振り返る。</p> <p>・分かったことやよかったことなどについて感想を話す。</p> <p>11 次時の予告をする。</p>		<p>8 課題のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>もとの大きさや比べたい大きさが分数の時も何倍にあたるか求めるには、わり算を使います。</p> </div> <p>9 練習問題を解く。</p> <p>・本時の学習内容をフラッシュカードで確認する。</p> <p>① 2/3kgをもとにすると、5/9kgは何倍ですか。</p> <p>② 8/9リットルを1とみると、5/6リットルはどれだけにあたりますか。</p> <p>③あかねこスキル</p> <p>10 学習を振り返る。</p> <p>・分かったことやよかったことなどについて感想を話す。</p> <p>11 次時の予告をする。</p>	<p>・5年生の発表を聞き、自分達の学習内容に関わるところに気付かせる。</p> <p>・時間がある児童には、今日の振り返りをノートに書かせる。</p> <p>・簡単なマークで本時の課題に対して、自己評価をさせる。</p> <p>・それぞれの学年の活動で良かったところを交流させる。</p>	まとめる 15分

(5) 板書計画

問題	<p>赤と青のリボンがあります。赤のリボンの長さは、$2.4\frac{1}{2}$ mです。青のリボンの長さは、$3.6\frac{3}{4}$ mです。赤のリボンの長さをもとにすると、青のリボンの長さは何倍ですか。</p>		課題		<p>もともになる大きさや比べたい大きさが小数・分数の時、何倍にあたる大きさの求め方を考えよう。</p>							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">赤のリボン</td> <td style="width: 85%;">もともになる大きさ</td> </tr> <tr> <td>青のリボン</td> <td>比べたい大きさ</td> </tr> <tr> <td>求めること</td> <td>何倍</td> </tr> </table>	赤のリボン	もともになる大きさ	青のリボン	比べたい大きさ	求めること	何倍		類題		<p>黄色のテープは $1.8\frac{3}{8}$ mです。赤のリボンの長さをもとにすると、黄色のリボンの長さは何倍ですか。</p>	
赤のリボン	もともになる大きさ											
青のリボン	比べたい大きさ											
求めること	何倍											
見通し 答え	1倍（もと）より長い				<p>まとめ</p> <p>もともになる大きさや比べたい大きさが小数・分数の時も何倍にあたるかを求めるには、わり算を使います。</p>							
方法	①関係図 ②言葉の式	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; height: 50px;">関係図</td> <td style="width: 25%;">言葉の式</td> <td style="width: 25%;">関係図</td> <td style="width: 25%;">言葉の式</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">計算</td> <td></td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">計算</td> <td></td> </tr> </table>	関係図	言葉の式	関係図	言葉の式	計算		計算			<p>ポイント</p> <p>比べたい大きさがもとより小さくても・大きくても</p> <p>比べたい大きさ÷もと</p>
関係図	言葉の式	関係図	言葉の式									
計算		計算										

(6) 座席表 (略)

(①：予想される支援場面 ②：さらに高めたい力 ③：①または②の具体的支援)

黒板

① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③
① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③
① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③

ヒントカード

関係図に表してみましよう。

ヒント 1の上がもと

言葉の式にあてはめてみましよう。

ヒント
 ○比べたい大きさの中にもとになる大きさは、いくつ分入っていますか。
 ○青いリボンは、赤いリボンの何倍ですか。

比べたい大きさ
 ()

もとになる大きさ = 何倍
 ()